

職員からのひと言

令和6年6月版

次席検事

私は、次席検事という検察官で、トップである検事正に次ぐ立場になります。

もともと、検察官と言えば、被疑者や被害者の取調べをしたり、刑事裁判に立ち会うなど捜査・公判活動を行っているのをイメージするかもしれませんが、私は、そのような捜査・公判活動を直接行っているわけではなく、主任検察官が事件を起訴するか不起訴にするかなどの判断に当たり、その決裁をしたり、その検察官や検察事務官を指導する立場にあります。

検察官は、捜査・公判の様々な局面で決断しないといけないことがあり、責任が伴いますが、非常にやりがいのある仕事です。



高知地検では、検察官、それを補佐する検察事務官、その他の様々な部門の職員が、協力し合いながら、やりがいを持ち、生き生きと仕事をしています。

私が大事だと考えていることは、県民が安心・安全に暮らせるよう、捜査・公判活動を通じて刑事事件の真相を解明するなど適正な刑事司法を実現することはもちろんですが、職員同士が話しやすい環境を作り出すことや、職員のワークライフバランスを充実させることが重要だと考えています。

職員一人一人が異なる個性や考え方を持っており、様々な意見を聞くことでより良い解決策を導くことができますし、職員が責任を伴う仕事をする中、業務の能率を上げ、滅入らずに明るく仕事をするためには、職員には休暇等を活用し、十分にリフレッシュしてもらう必要があります。



私も、先日、休日を利用して石鎚山に登山に行き、頂上までは到達できませんでしたが、雄大な景色に囲まれながら、新鮮な空気を吸うなど、リフレッシュすることができました。次は、是非、頂上(あるいはその近く)を目指してみたいと思います。

副検事

私は、現在、副検事として勤務しており、担当している職務は、主に刑事事件の捜査・公判になります。事案の真相解明のため、被疑者の取調べや参考人の事情聴取を行うなどして、自ら必要な証拠を収集したり、防犯カメラ映像等の客観証拠を精査するなどして、必要な捜査を遂げた上で、起訴・不起訴を決めています。

日本では、一部の例外を除き、検察官だけに起訴権限が与えられているところ(起訴独占主義)、日々、そのような重責を担っていることを念頭に置き、職務に邁進しています。また、捜査の結果、起訴が相当であると判断し、公判請求(公開の法廷で裁判を求める形式での起訴)した場合には、裁判において、犯罪事実のみならず、情状(被告人の行為の悪質性や常習性等)についても立証を尽くし、被告人にとって適正な刑を求めています。

その他にも、被害者支援や被疑者・被告人の社会復帰支援(再犯防止)のために関係機関と連携するなど、検察官の仕事は多岐にわたっています。

このように、検察官の仕事は責任重大ですが、同時に大きな達成感ややりがいを感じることができ、日々充実した生活を送ることができています。

また、検察庁では、職員のワークライフバランスを重要視しており、勤務時間を柔軟に変更したり、休暇も取得しやすい執務環境が整っています。私は、県外に自宅があるのですが、執務環境が整っているおかげで、ほぼ毎週自宅に戻り、家族と一緒に過ごすことができています。

私の余暇の過ごし方についてお話しすると、休日は家族と過ごす時間を大切にしており、家族で観光に行ったり、外食をしたりして心身をリフレッシュさせています。



最近、4歳の長女がカラオケにはまっており、猫のキャラクターの某カラオケ店にほぼ毎週通っています。

また、私は、プロ野球を見るのが好きで、月曜日以外は、某虎のマスコットのチームをテレビ等で観戦し、ときには選手の応援歌やチャンステーマを口ずさむなどして応援しています。



今後、高知県でやってみたいことについてお話しします。

私は、高知での勤務が初めてであり、先日、日曜市へ赴いたところ、「オカヤドカリ」という生き物を販売していたので調べてみました。



すると、なんと天然記念物であるということが分かりました。

珍しい生き物で、とても気に入っているのですが、高知地検で勤務した記念として、今後購入し、育ててみたいと思っています(なお、4年前に大津地検で勤務していた際、記念として梅の盆栽を購入したのですが、現在も元気に育っており、毎年きれいな花を咲かせてくれています)。



企画調査課長@企画調査課

私は、娘から教えられたテレビゲームにハマリ、夜お酒を飲みながらテレビゲームをするのがここ最近の日課になっている企画調査課で勤務する者です。



企画調査課は、検察業務の魅力や学生や地域の皆様へ広く知っていただくための広報活動や、職員の研修に関する業務、図書管理に関する業務、検察庁で使用するパソコンやシステムの管理に関する業務、ホームページの作成など、様々な業務を行っています。

ところで、就職先の候補として検察庁が気になっている学生の皆さん、検察庁で働くには「法学部を出てないとダメなんじゃないか」と思われたりしてませんか？

検察庁では、勤務経験に応じた研修が段階的に複数回にわたって行われますので、真剣に取り組めば、検察官になれるくらいの法律知識を習得することができます。

法学部出身じゃなくても全く大丈夫ですので、少しでも検察庁に興味がある方は、就職先の候補にさせていただけると嬉しいです。

そして、業務説明会に参加していただくと、職場の雰囲気や、検察業務を深く知ることができ、新しい魅力が発見できると思いますので、ぜひお気軽にご参加ください！



検察官取扱検察事務官@刑事・交通事件捜査担当

私は、主に交通事故や交通違反などの捜査を担当しています。

捜査を行うに際し、立場の違いはありますが、事件関係者の方に対しては、誠意ある対応をして、相手方の心を傷つけないよう十分注意し、相手方から話を聞く際には、分かりやすい言葉遣いを心がけるようにしております。

そして、自分の責任で事件を処理することから、緊張感を持って日々仕事をしています。

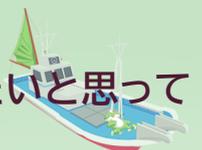


また、仕事を離れると、それぞれ「なぜなぜ期」、「イヤイヤ期」に突入している2人の娘の父親として、妻とともに子育てに奮闘しています。

当庁では、積極的な育児休暇取得を推進していることから、長女、次女が生まれた際は、ともに半年間の育児休暇を取得させていただきました。当時の上司、人事担当職員の方からいろいろアドバイスをいただき、育児休暇を取得するに当たっては、何の不安もありませんでした。

もちろん、育児休暇期間中は、子育てで大変な面も多々ありましたが、それでも日々成長している子どもの姿を見ることができ、まさに「這えば立て、立てば歩めの親心」を実感しながら、貴重な時間を過ごすことができました。

もう少し大きくなれば、妻の操船する船に乗り、家族で釣りを楽しみたいと思っています。



用度係@会計課

私は、現在高知地検で勤務していますが、令和2年から令和5年までの4年間、いわゆる本省(東京霞ヶ関にある法務省)で勤務していました。本省勤務経験がある事務官は高知地検では数名ほどということもあり、私のケースを簡単にご紹介させていただきます。

単に本省と言っても様々な部署がありますが、私の場合、最初の2年間は、大臣官房厚生管理官という部署で、共済(法務省職員の社会保険制度)事務を担当する地方職員からの質問対応、職員向けの研修や監査などを担当しました。残りの2年間は、大臣官房会計課という部署で、会計検査院に提出する書類の点検・取りまとめや、法務省所管の行政事業の点検などを担当しました。いずれの部署においても、地方にはない中央ならではの業務を経験することができました。

また、大臣官房は、検察庁だけでなく、法務局や刑務所、保護観察所等の他官署の職員で構成されており、これまで馴染みのなかった他官署の実情等を知る貴重な機会となりました。

プライベートでも、東京勤務という地の利を活かし、都内や関東地域の観光やグルメを堪能し、本省勤務最終年には妻や子供を呼んで東京で年越しをするなど、東京生活を満喫しました！



このように、地検採用の職員でも、本省や最高検察庁(本省と同じビル内にあり、最高検での勤務経験がある高知地検職員もいます。)で勤務する道もありますし、高松高検や四国の他地検での勤務、法務省内での組織間人事交流や出向という道もありますので、検察庁に採用となった際には、選択肢の一つとされてはいかがでしょうか。

最後になりましたが、現在の私の担当業務である用度係の業務内容や重要性などについては、令和6年2月版の「職員からの一言」に掲載がありますので、ぜひご参照ください。

※異動については、本人の能力・適正や家庭事情等を考慮の上、人事当局の判断により決定されるため、必ずしも本人の希望が叶うものではありません。



事件管理担当@捜査公判管理

私は、採用5年目の事務官で、検察官や立会事務官の業務をサポートする部署で働いています。

飽き性なので、よく趣味が変わるのですが、今の趣味は、温泉、サウナ、美味しい物を食べることなどで、休日には、日頃から気になっている県外の温泉や飲食店めぐりをしてドライブしています。

最近、特にスパイスカレーにはまっています。

勤務中、無性にカレーが食べたくなるときがあるのですが、そういうときは思い切って休暇を取得し、カレーを食べに行き、ついでにケーキも買って帰るなどして休暇を満喫しています。

また、今年は、2年ぶりに、広島県での某アイドルグループNのライブ(土曜日開催)に当選したので、金曜日から休暇を取って、出発しようかと考えています。



このように、高知地検は休暇の取りやすい職場です！

もちろん、繁忙期もありますが、休暇を取りたいときに取ることができるので、メリハリをつけて働くことができます。

最後に、最近行って良かった温泉は、田野町にある某温泉で、人があまりいなくて静かにのんびりと入浴できる上、サウナもあり、しかもお湯がトロトロで入浴後は肌がスベスベになりました。



皆さんも是非行ってみてください(^_^)



立会事務官@捜査公判管理

私が担当している立会事務官は、簡単に言えば検察官のサポートをする仕事です。被疑者の取調べの立ち会いや、「起訴」・「不起訴」といった事件の処分に関する書類の作成、公判準備など業務内容は多岐にわたります。ときには検察官から事件の内容について意見を求められる場面もあり、自分自身が捜査に関わることができるのも立会事務官の魅力の1つです。

仕事が休みの日には、主に趣味であるキャンプやランニングなどアウトドアを楽しんでいます。職場の若手同士と一緒にキャンプ等へ行くこともよくあり、充実した日々を過ごせています。



私は将来的に副検事になることを目指しており、今の立会事務官としての経験は非常に貴重な時間となるため、機会を逃さず様々なことに挑戦し、経験を積んでいきたいです。

証拠品担当@検務官室

私は、証拠品の受入れや保管・処理に関する業務を担当しています。

証拠品は、事件解決のための重要な資料となるだけでなく、所有者の権利を一時的に制約した上で保管している物となるため、常に緊張感を持ち、取り扱っています。



ですが、ふだんは触れることのできない拳銃や覚醒剤等を取り扱うことができるなど、生活をしている中では体験できない貴重な機会も多くあり、緊張感を持ちつつも、毎日楽しく働いています。

また、私事ですが、検察庁に入庁して今年の4月で2年目となりました。入庁したばかりの1年前は、職員の顔と名前を覚えることに必死な毎日を過ごす中、聞き慣れない言葉ばかりが職場では飛び交い、1年後の私はどうなっているのだろうと不安を感じることも何度もありました。

ですが、職場の優しい先輩や上司の方々に囲まれながら、一から丁寧に教えていただいたり、充実した研修を受けることができたりと、法律への知識がなかった私でも、日々新しいことを学び、成長できていると感じています。



プライベートでは、最近一人暮らしを始めたということもあり、使い慣れていない洗濯機や、今まで避けてきた料理と日々奮闘しつつ、両親の偉大さを改めて実感しているところです。まずは、部屋のきれいさを保つということを目指し、なるべく早く生活に慣れ、仕事もプライベートも楽しく、充実させていきます！！

各ページに僕たちが隠れているよ！
探してみてね～！

